

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念の中に、「地域との触れ合いを大切に、心安らぐ、GHを目差す」という文言を入れている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームに理念を掲げ、目に付くようにしている。また、新人研修のマニュアルにも理念を提示し、意識付けをしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所に理念を掲示したり、毎月の「のんきさん通信」にて理念の啓発活動に努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ぶどう狩りなどのイベントを企画した際には、お土産を近所の人々にも配ったり、散歩の途中でも必ずあいさつをするように心がけている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会にも入会したり、地域の運動会・文化祭や神社の祭りに積極的に参加するようにしている。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	園長自ら地域の高齢者の集まりに参加し、「認知症についての講演会」などを依頼されたり、運営推進会議の構成員との情報交換を通じて地域の高齢者への関わりあいを持っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりがこの評価表に取り組み、GHが求められていることや、ケアの再確認に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際、毎回活動報告をして、意見交換をしている。また、地域住民代表の方には、地域のイベントで入居者が参加できるものを紹介してもらっている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当事業所が加入しているGH協議会において、市役所の介護保険課の方々との交流し、意見交換をしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市主催の研修や協議会の勉強会などに参加している。また、入居者の方にも成年後見制度を利用している方がいる。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修に参加し、学んだことをミーティングや資料の共有によって学んでいる。また、言葉の虐待や自分たちで意識しない中にも虐待が存在するのではないかと、注意している。		
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて説明し、納得頂いた上で署名・押印をいただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者自身の意見や不満があれば、職員がまず日誌や送りにて職員間で共有し、必要に応じて対応し、家族に報告している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「のんきさん通信」を発行し、報告している。また、同封の挨拶状に個々の様子を記入し、報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口の案内を明記している。また、苦情や相談がよせられた時には書類に残し、今後の対応に生かしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日申し送りに参加し、状況把握に努めている。また、月に一度は全員で集まりミーティングを行い、意見交換の場を設けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	イベントや外出などで職員の手がいる場合は、調整し対応している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	休日の確保や勤務に無理がないように調整し、退職する職員が出ないような努力をしている。また、退職者がある場合にはスムーズに引き継ぎができるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されているようにしている。	採用にあたっては、認知症ケアへの熱意を重視し、年齢性別などで排除することはない。また、勤務している職員にはストレスが溜まらないよう休日の確保や有給休暇も取れるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	権利擁護の研修に参加したり、その研修結果をその他の職員へミーティングの際報告したりして啓発に努めている。		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会の新人研修には、入社間もない職員には必ず出席するようにし、また働く際にも指導担当をつけて早く一人前になるようにトレーニングしている。		
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や介護支援事業者連絡会などに入会している。また、ほっとスクラムという社会福祉協議会主催の地域の事業者や一般の人との交流を持っている。他の施設の見学などにも積極的に出向いている。		
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスが蓄積しないように、休みを十分にとってもらい、業務に支障がなければ有給休暇も積極的にとれる環境づくりに取り組んでいる。また、一人ひとりに声をかけし、悩みやストレスを傾聴するようにしている。		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格手当や調整手当など、努力や勤務態度に応じて反映されるようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学などで相談を受けた時点から、本人が困っていることや現在の認知の状態を本人やご家族から十分聞くように時間をとっている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人よりもご家族からの相談が多数のため、家族からの話を十分に聞くようにしている。また、日中仕事などで時間が取れないご家族には、夕方から夜にかけてもアポを取り対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、認知症の程度や状況をよく聞き、当施設対応であるか検討したり、もし満床だとしても、他のGHやGH対応でなければ他の介護施設と一緒に探すなどの対応をしている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一週間の体験入居を設け、当GHに馴染めるかどうか判断して頂くようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できる事を見極め、家事などは積極的に手伝ってもらい、共同生活を送る一員としての役割を持って頂くようにしている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、毎月の通信に同封するあいさつ状に本人の現況を詳しく伝えるようにし、イベントなどにも積極的に参加してもらうようにし、家族の協力を得る努力をしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時に家族関係を十分に聞き、また面会時などに聞いたことは職員間での伝達事項として共有し、家族との関係がよくなる様に努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長い間生活してきた場所や近所の方々に会いたいという訴えのある場合は、お連れするようにしている。また、友人や親戚の方々の面会も自由にできるようにしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲のよい利用者同士は共に話したり行動できる環境を作り、逆に衝突する可能性のある利用者間では大きなトラブルになる前に		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療機関に入院された利用者にはお見舞いに行ったり、他の施設に入所された方で当事業所が紹介したりした利用者には、転居先の職員に近況を伺ったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際に、本人やご家族にセンター方式を基盤とした思いや希望をお聞きし、なるべく答えられるように努力している。また、認知が進み、ご自分の意思が伝えられない入居者に対しても、その方の立場に立って希望を考えている。	
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のセンター方式で生活歴やなじみの暮らし方の把握に努めたり、ご本人とのコミュニケーションの中にもヒントがないか職員間で情報交換をしている。	
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活のリズムを一人ひとり把握し、無理のないような暮らし方ができるように支援することを心がけている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネと担当者及びご家族が一同に集まって話し合いを持ち、支援の仕方を検討している。特に、ご家族・ご本人の意向を中心に考えている。	
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングにおいて、入居者一人ひとりの様子について必ず話し合いを持ち計画の変更の必要が生じた場合には速やかに話し合いの場を設け、計画の見直しをしている。	
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を時系列にした日報を作り、1日の流れに沿った様子がわかるような書式にしている。また、朝夕2回の申し送りを実施し、情報の共有を図っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や理美容など、ご家族や本人の要望に応じた対応を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の催し物(体育祭・文化祭・祭りなど)には積極的に参加し、地域の方々の協力を得て支援している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問マッサージや訪問歯科など必要な利用者には、医師や他の事業者と連携し提供している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの方に運営推進会議のメンバーになってもらっており、会議の際にケアについての話し合いを行っている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	事業所の提携協力医院ではない、なじみのかかりつけ医がご希望の利用者には希望に応じて適切な医療が受けられるようご家族や医師との連携を図っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	市内でも有名な認知症専門医の受診ができるようにご家族にもお願いし、本人にとって一番よい治療を受けられるようにしている。往診もお願いしている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の資格のある職員を配置し、日常の健康管理や認知症の進行具合などを一人ひとりに注意を払い、他の職員とも相談・連携しながら支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合には、職員が必ず訪問し、家族や病院関係者に経過の説明をしてもらうようにしている。また、早期に退院できるようにご本人を励ましたりしている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日々の様子に常に目を凝らし、重度化が予想される場合には、当事業所に対応できるかまたはできないならば、相応しい施設を探したりするようにご家族や医療機関と連携している。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当事業所でケアができるとかかりつけ医や職員の間で判断できる場合には、1日の流れの中でのケアを考え、支援していく。できない場合には受け入れ先をご家族やケアマネなどとも相談しながら支援している。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居の際には、ご本人のなじみの物をできるだけ持ってきていただき、混乱や寂しさなどのダメージが少なくなるようにご家族の協力を得ている。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	申し送りの際や日報には、イニシャルを用いてプライバシーの確保に努めている。常に否定しない態度や言葉かけをするようにしている。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	個々の能力に合わせて自己決定する機会を提供している。買い物などでも多くの中から選べない利用者には二者択一にして、分かる能力の維持に努めている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩などに出かけたい時には、利用者の訴えに合わせて職員のほうが都合をつけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	好みの服装やお化粧など、希望があれば必ず沿うようにしている。また、美容院などは近くの美容室に理解と協力をして頂き、常に対応している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いりこの頭採りやお茶の葉のパック詰めなどの下ごしらえや干し柿づくりなど利用者と職員が一緒になって取り組んでいる。また、健康上や嗜好を考えた献立を作るようにしている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康上問題のない範囲で、お酒やおやつなどは本人の希望に応じて提供している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録を個々につけ、排泄パターンの把握に努めている。また、ご自分では訴えられない利用者には、やさしく尊厳を守った対応で誘導するようにしている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日自由に入浴できる体制にしている。拒否が見られた場合には無理強いせず対応している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	全室個室のため、常に自由に休息できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	音楽を流したり、毎朝新聞を提供したり、個々の好みのことをしてもらうように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	他者との軋轢が生じないように配慮しながら、金銭管理ができる利用者にはお金を所持してもらい、自由に使えるように支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の悪い日以外は必ず1日に1回は野外に出るように支援している。散歩などに出かけられない利用者には、テラスを設け、外の空気にふれてもらうようにしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	市報や地域のたよりなどから常に情報を得て、社会資源を活用しながら普段は行けないところにお連れするように努力している。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の都合に配慮しながら、自由に電話などができるように支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は、自由にいつでもできるようにしており、また個室にて自由に過ごしていただけるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や高齢者虐待についての研修に参加し、その結果を職員間で共有して、拘束をしないケアに取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠をしていない。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在を確認し、職員が休憩などで離れるときには声をかけ合い、外出の際も声かけし、さらに必ず返事をもらうようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁やはさみなど、生活支援上必要なものは、職員が側について使ってもらっているようにしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年に1回は消防訓練を実施し、事故防止や緊急時の対応の習得に努めている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防訓練の際に、同時に心マッサージや人工呼吸の講習を受けている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	訓練をし、避難経路の確認や避難の仕方などを身につけるようにしている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ひやり・ハットの報告を数多く提出し、大事に至らないように事例検討を重ねる努力をしている。		
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	連絡帳や日誌・申し送りに体調の変化があるときには、記入し職員が必ず目を通す習慣をつけている。また、必要があればその都度対応している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬管理表を作成し、毎日チェックしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の有無や期間を把握し、服薬などで便秘が続かないようにしている。また運動による解消にも取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアをしている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量についても毎日チェックして記録に残している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてのマニュアルを作成したり、関係機関からの通知にも職員に流して、注意している。毎年インフルエンザは利用者・職員ともども予防接種をしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	チェック表を作成し、毎日衛生管理ができるようにしている。生ゴミなども毎食後に処理し、台所に残さないようにしている。		
82				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	柵や施錠などをしておらず、自由に出入りできる環境にしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは毎朝掃除し、清潔維持に努めており、また廊下の壁には季節を感じられるような貼り絵を利用者と職員で毎月作成し、掲示している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員で集まれるリビングの他に、玄関先に長いすを設け、気のあった利用者同士で過ごせるように工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火気以外は自由に持ち込めるようにして、名前も目立たないところに記入しておくなどの工夫をして自分らしい居室作りを心がけている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	アロマオイルなどの微量な芳香剤を使ったり、換気してりして、においのない環境を提供している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの建物にし、なるべく直線的な動線ができるような工夫をしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室などは、わかりやすいように張り紙やプレートなどを付け、混乱しない環境にしている。		
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外にイスやテーブルを配置したり、花壇や家庭菜園を作ったり利用者が外でも楽しめるようにしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私たちグループホームのんきさんでは、お一人お一人の個性を尊重し、また個性が活かされるような支援を目指しています。毎日外気に触れることを目標にし、散歩や日光浴を日課としています。また、買い物や近くの高蔵山公園へ出かけたり、年1回は日帰り温泉旅行や母の日には食事会などを企画しています。また地域のイベントにも積極的に参加し、老人会にも入会している利用者もいます。沼神社の祭りや地域の運動会・文化祭などにも参加し、地域の方々との交流を通じて認知症高齢者に対する理解や協力を頂いております。「笑顔の絶えないのんきさん一家」というキャッチフレーズの下、のんきさんの歌なども作っています。毎年7月と12月には家族会を開催し、数多くのご家族に参加して頂き、ご家族同士の交流も盛んです。